

中国5県絶景の旅③

山口県下関市吉田・明月山常関寺
——鎌倉のあじさい寺由来の山号

子供の頃にテレビで放映されていた山口県萩市のCMソング……、その一部を今でも覚えていた。

萩に對する憧憬だけは心の奥にずっと残っていた。絶景の旅で山口県を選んだとき、行先はすぐに決まった。萩市といえば、長州藩毛利家の城下町である。かつて備後国地岨庄(現広島県庄原市)の領主であった山内首藤(やまのうちのすどう)家も、毛利家の家臣として随行、江戸時代は家老として長州藩を支えた。

どうせ行くなら、山内首藤家のゆかりの地も訪れてみたいと思っただ。

出発は2月11日火曜日、建国記念の祝日である。車で家を出たのは朝の9時過ぎで、庄原インターチェンジから中国縦貫道に入った。途中、何度かサーブスエリアで休憩を取りながら、山口インターチェンジまで3時間もかからない。休日割引で、利用料金が30パーセント引きなのが嬉しい。

2日前にかなり雪が降り、積雪や路面の凍結が心配だったが、きれいに除雪されていて走行に問題はなかった。冬用タイヤ規制で、

パーキングエリアを利用した検問所が設けられている。冬用タイヤでない車は、チェーン装着が強制される。雪のない道路をチェーンで走行している車が何台かいたが、車体が揺れて不安定で危険、あれでは路面も傷んでしまう。

2月は在庫整理休業期間であり、持病の腰痛もあるので、ゆったりとした旅程を組んだ。昼食後に、湯田温泉の日帰り入浴施設で寛いだ。開湯は約600年前と言われ、田んぼの真ん中で湯が湧き出たから「湯田温泉」。白狐が傷を治すために通っているのを高僧が見かけて発見したという伝説から、「白狐の湯」と呼ばれている。その日はそのまま近くのネットカフェの個室で一泊、最近のマイブームである。

翌日、下関市吉田にある長州・山内家の菩提寺である「常関寺」を目指した。関ヶ原の合戦後、毛利家が防長の地に滅封になり、山内家は厚狭郡吉田(現・下関市吉田)に4905石の所領を与えられた。

住所をナビに入力したのだが、必要もない高速道路に誘導されたあげく、途中で画面がフリーズ。古い機械で今まで何度かひどい目にあっただが、買い替えが面倒でそのまま使っていたが、完全に壊れてしまった。スマートフォンナビに切り替えて、どうにか目



長州山内家の菩提寺・明月山常関寺の本堂
(※白くぼやけているのはレンズに付着した水滴)



山門からはのどかな山村の風景が一望できる

的地にたどり着いた。地図を用意していないので、見知らぬ土地のドライブではナビがないとお手上げである。

常閑寺は山寺といった雰囲気、周辺には二日前の雪がまだあちこちに残っていて、思い込みもあるのだろうが、どこか庄原の山村の景色に似ていると思った。山門の内側に、2枚の解説板が設置されている。寺の由来と、奇兵隊に関する史跡の解説。

常閑寺（常閑禅寺、曹洞宗）は、寛永5年（1628年）長州・山内家の初代領主である山内大隅守広通が建立、電光禅院と称したが、万治元年（1658年）山内縫殿就通の



ときに寺号を常閑寺と改め、さらに享保15年（1720年）山内縫殿広通が山号を明月山と改めた、とある。米沢寿美子さんが著した「花影の

明月院」（自由書館、昭和57年刊行）。鎌倉にある明月院は、あじさい寺として有名だ。「梅雨の頃、古都鎌倉を彩るあじさいの花は、七色の霞のように美しい」「なかでも、淡い水色に咲き揃う明月院のあじさいは、神聖ともいえるほどの清廉さを秘めている」

北鎌倉山ノ内の明月谷（やつ）の少し奥まった場所に建つ明月院に魅せられて、東京の自宅から何度も訪れていた著者は、寺院の歴史にも興味を抱くようになる。開基は上杉憲



あじさい寺として有名な鎌倉明月院の参道
(フリーサイトより転載)

方と、境内の解説板にも鎌倉市史にも明記されている。しかし、拝観の入場券の裏側や明月院のパンフレットには、「開基 山ノ内経俊」で憲方は中興開基（再建者）となっている。伝承されている寺伝ではそう記してあるらしい。明月院の本当の開基は誰なのか？

米沢さんは「山内首藤家文書」の存在を知る。江戸中期、毛利家の家臣山内広直が、鎌倉時代以降に伝えられている文書573通を「文微（ちよう）」と題して、巻物27巻に整理した。それをそっくり活字にして発行したものが山内首藤家文書である。著者は古文書を読み込んで、自分で解説してゆく。

山内首藤経俊（つねとし）は、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」にも出てくる有力な武将・御家人である。山内首藤家文書の「関東下知状」から、経俊存命の頃から備後国地毗庄の地頭であったことがわかる。経俊の5代あとになる通資（みちすけ）のときに、山内氏は相州鎌倉を完全に引き払い、備後に居を移している。

その地に古くからあった寺を再建し「円通寺」と名づけ、その裏山に甲山（かぶとやま）城を築いた。米沢さんは書いていないが、

庄原市川手町には明月院平等寺がある。「芸藩通志」によると「文和年間首藤通資造立後、かの家の祈願所となり」と記されている。米沢さんは山内氏の史跡を辿り、庄原の円通寺を訪れ、さらには萩まで足を伸ばしている。

首藤家文書の中に「明月院」が登場する。「明月院道安書状」、当時の鎌倉明月院住職道安が長州萩の山内広直に送った、香奠に対する礼状である。米沢さんはその文面から、それ以前に鎌倉明月院と長州山内家との交流はなかったと推測。文微の作業の中から広直は「鎌倉明月院は山ノ内経俊の建てた寺」であることを突き止めたに違いないと結論する。

そして、常閑寺の解説板の「明月山」である。明月山と改名した山内広通は、首藤家文書を編纂した広直の嫡子で、広通も古文書整理に関わっていたと思われる。そこに、明月山とわざわざ山号を改名した理由がある……。『花影の明月院』には、常閑寺のことは何も書かれていない。

下調べ不足で、本堂の裏手にあるという山内家の墓所や、飢饉で餓死した者への亡魂追善供養のために奉納されたという十六羅漢像を見ることができなかった。雨で道がぬかるんで、腰痛持ちには辛い一日だった。

絶景の旅ではなく、歴史の旅になってしまった。次号では高杉晋作の墓所がある「東行庵」、そしていよいよ「城下町萩」を紹介する予定である。

寄稿エッセイ

「雑木林がヤバイ」

高柴順紀（菊栽培農家）

比婆の山々は麓まで落葉広葉樹林の林が続いている。私たちは雑木林と言っていますが、春の萌黄色から秋の紅葉まで四季折々の色で私たちの心を和ませてくれます。

しかし写真のようにここ五、六年



ナラ枯れの進む山（東城町森・天神山）

は、人間の勝手な思惑で我々

この状況をもたらしたの速さも理解できません。

急激に繁殖してきたのです。幼虫も成虫も五ミリ程度の小さな甲虫であり、一夫一妻でその涙ぐましい営みには頭が下がるとはいえ、他のカッブルも沢山入った一本の被害木から翌年の春には数百匹も飛び出すので最近の被害拡大の

ごろから異変が起きてきた。緑なす夏山のはずが点々と赤く紅葉し、数年のうちに枯れるのです。被害を受けているのは雑木林の主要樹木であるドングリを落すミズナラであり、近縁のコナラも危ぶまれている。この症状をナラ枯れと言い、被害木に近づくと胸高あたりから下に沢山の虫穴があり、その中から排出された木くずが根元に溜まっているのが見えます。木喰い虫（カシノナガキクイムシ）の仕業で、最近

を見捨てたからだと言われている。雑木林が言うに違いない。かつて村人は雑木林の恵みを最大限利用してきた。家の建材は元より農具も日用品も木から造り、暖房や煮炊きする燃料として薪や木炭に依存していました。貧しいけどまさに木の文化だったと言えるかも知れない。だから今みたいに雑木林が放置されることは無かったし、ミズナラも木喰い虫が居ても飛んで来るほど大きくなりすぎることも無かったはずだ。

たたら製鉄が最も栄えた近世の比婆でも燃料の木炭の供給に雑木林は大きく役立った。「小鉄七里に炭三里」と言われたように周りの木がなくなるとたたら場を移動するという、豊富にある砂鉄よりも燃料となる木炭に頼った産業でもあった。砂鉄を取る鉄穴流しで山容は変わったが、良くしたもので日本の気候風土は伐りつくしたミズナラなどは二、三十年後には元の林となり、再利用ができる循環型の自然に優しい産業でもあった。

話は飛躍するが「もののけ姫」の物語も森を伐るたたら場の人たちと森の神々との争いであった。しかし最後は共存する姿で終わったと思うが、この物語は古代都市国家が周

の森を伐り尽くすと同時に滅亡したと云われる西洋の事例とは一線を画す物語でもあった。人類史上初めての文明を生み出したメソポタミアではギルガメッシュ王がレバノン杉を守る森のフンババを殺し、レバノン杉の森を伐り尽くした王の都市国家が滅びたという叙事詩が粘土板に楔形文字で記されているという。今も荒廃した土地にレバノン杉はほとんど残っていないようだ。

数千年前の警告を、案外形を変えて木喰い虫が示しているのかもしれない。それは森を古代文明の原動力としたように、今は石炭、石油、ガスなどを掘って掘って掘りまくり、現代文明の原動力にしている我々も滅びの方程式にはまっているのかもしれない。

ミズナラとコナラが優先する雑木林の風景が、四季のない常緑の山里になるかも知れないとする専門家もいるのだが、故郷の将来が気になります。

参考文献

『森と文明』ジョン・パーリン（昌文社）
『木の文化』比和町郷土文化伝承施設
『炭の文化』比和町郷土文化伝承施設

ハロー注意報⑮

——進駐軍がいた町のはなし

チヨコもジョンも生きた 松岡初枝

戦後七、八年が過ぎた頃、私は幼稚園に通いはじめた。そのころの私は、今の私と比べると不思議な程消極的な子だった。友達も日本舞踊のお稽古仲間とすずちゃん、あとはほとんど一緒に遊ぶ人が居なかった。

幼稚園でも嫌なことがあると、すぐに泣いて家に帰ってしまった。「はっちゃん又帰って来ちゃったの？まあ学校じゃないからいいか…」祖母も母も仕方がないという風で「無理

に行かなくてもいいよ」と言ってくれた。そんな時にはレコードで童謡を聴いたり、絵本を見たりしてひとり遊びが多かった。

弟達が外遊びをしていて、私が一人でポツンと居る時いつも側にチヨコがいた。今思うとチヨコは私の後見人のような存在だった。何しろしっかり者の雌猫のチヨコは当時十四、五歳の老猫だったが、私が五歳の時にも仔猫を産んで、見た目も動きも



三毛の雌猫チヨコ

若々しかった。戦前戦中を生き抜いたチヨコは防空壕へも家族と一緒に逃げ込んだり、食料の乏しい時代に「猫なんか飼って！」という御近所の白い眼にもめげずに飼い主共々凜としていた。だから私や弟達を見

る眼が「私からすればからきし子供だネ」というチヨコの態度だった。しつこく触るとこっぴどく怒られたこともあった。祖母が用意した餌を私が持つてゆくと、頑として食べない。祖母が「まったくチヨコちゃんたらさあ…」と言いながら置いてやると、ゴロゴロと喉を鳴らして食べはじめた。

チヨコは仔猫の頃知り合いから貰い受けた子で、大事に連れ帰って以来の運命共同体といったところである。祖母が外出時に着物を着てゆくのだが、前日から着物を衣紋掛けに吊るし、小物を風呂敷に入れて置く。そこに素早く察知したチヨコが腰紐などを一本づつ啜えて箆筒の後ろに隠してしまふ。次の日、祖母が着物を着はじめるとそわそわしたチヨコを見て「ハハア、又隠したね」祖母もとつくに承知していて「邪魔しないの！」と箆筒の後ろから腰紐をひっぱり出して着付けを済ませる。するとチヨコは次の手段で、お出掛け用の草履の上に座り込む。「ほら、どいて。大事な用事があるの！」さっさと草履をつっかけて出て行った祖母を見送ったチヨコは、いつもの居場所の箆筒の上でフテ寝してしまうのだ。「チヨコちゃん遊ば」と呼んでも

動かない。「チヨコはおばあちゃんの子供なの、放つて置きなさい…」と母は笑うが、祖母の居ない日のチヨコは本当に抜け殻のように眠っていた。

私が小学五年の春、チヨコは十九歳という長寿を全うして死んだ。自分の身近な生命の初めての死に、私も弟達も大泣きした。体は少し細くなり、一週間ほど水と牛乳だけで生きて力尽きた。それでも最後まで猫砂で用を足していたチヨコ。祖母は涙を見せながら「御苦労さまだったねえ…、皆を楽しませてくれてさ、戦中を生き抜いた戦友だ。チヨコありがとうがとね…」

店のお客もチヨコの死を残念がってくれる人が多かった。特に仔猫を貰っていった人などは「まあ、チヨコちゃん死んだんですか…。ウチの猫もお利口ですよ」「まあそうですか。猫は気まぐれな所があるけど、長い間一緒でしたから淋しいです…」店の中ではしばらくの間、チヨコの話が交わされていた。

近所にあるお茶屋に、チヨコと同じように戦前から長く生きた「ジョン」というシェパード犬がいた。ジョンも私が五歳頃に十二、三歳の老犬で、口のまわりの毛がすっかり白く



チヨコは祖母が大好き!



チヨコの産んだ仔猫と私 (著者)

私は心配してくれてんだ。」。そういえば、ジョンは近所の子供が転ん

なり、いかにもお爺さんという風情で町内を散歩していた。昭和二十年代には、犬にリードを付けて人間が散歩させなくても大丈夫で、登録済みの首輪さえしていれば、犬がひとり歩きをしてもあまり気にならなかった。特にジョンは利口な犬で、近所の子供達の“おじさん”のような存在だった。飼い主のお茶屋のおじさんは「ジョンも軍用犬で徴用される所だったけど、犬歯が一本欠けていたんで助かったんだよ」と言っていたが、そのおじさんも父と同じように南方戦線で戦った戦車部隊の兵士で、父とは戦地で少しの間同じ

所にいたという戦友だった。二人とも生きて帰ってこられた。戦場には人間ばかりではなく、犬や馬も徴用されていて、犬は伝令や兵舎の護衛、馬は重い兵站(へいたん)運びに従事していたという。農耕馬を徴用された農家のおじさんは、戦後「何々方面で戦死す」という官報が届いたと言っていた。どちらにしても動物も戦場で働いていたのだ。歯が一本欠けていたジョンは命拾いした訳だから、何が幸いしたかわからないというものだ。

どこ行くの?」と言っても知らん顔で八幡山の方へ行く。私が後をついて行くと、寺山と八幡山の間細道に掘られた防空壕へ入ってゆく。防空壕は戦後御用済みとなり、穴の前には鉄条網が張ってあり、立入り禁止の立て札がある。犬一匹がやっと通れる程の隙間があり、その隙間から穴に入ったジョンは、中の涼しい場所であまり休んでいる。「ジョン、帰ろうよ、ここは入っちゃいけないんだよ!」。それでも平然としたジョンは、暑い夏の空気とは無縁のような穴で涼んでいる。「もう帰ろ、私、先に帰るよ」と言って歩きだすと、

やりとジョンがのっさり穴から出て来た。トボトボと私の前を歩くジョン。私が後からついて行くと、ジョンは後ろを振り返りながら歩く。何歩か歩くと又振り返る。そうか、ジョンは私の事が心配でゆっくり歩き、振り返ってくれたんだとわかった。「ジョンありがと、私を心配してくれてんだ。」。そういえば、ジョンは近所の子供が転ん



「リコウさんか……」

文吾さんが函から本を取り出した。かなり大きな本で、A4サイズぐらいはあるだろうか。パラパラと本をめくった。

「大事にしてたんだろうね。古い本なのに、シミや汚れがほとんどない。昭和三十八年の初版本だし、これは価値が高いよ。これでいいかな」
人差し指を一本立てた。

「千円ですか？」

文吾さんがかぶりを振って、ニヤリと笑った。

「二万円だよ」

相手の日焼けした顔に、笑みが浮かんた。

「何、勝手に買取をしてるんですか」
あわてて声をかけると、文吾さんがアハハとわざとらしい声で笑った。トイレに行っている間の留守番を頼んだだけなのだ。

山本文吾さん、店の常連客である。定年退職後、東京に家族を残して故郷の実家にUターンして来た。小説を書いているそうなのだが、アイデアが煮詰まったと言ってはうちにやって来て時間をつぶしている。

文吾さんをカウンターから追い出して、本を確認した。「長谷川利行画集」、中央公論社の出版だ。仲間

内からは「リコウ」と呼ばれていたが、本当は「としゆき」。放浪の天才画家といえば山下清が思い浮かぶが、長谷川利行の方が元祖である。詩や短歌、小説などを書いてきた文学青年だった。師をもたないままたくの独学である。

山谷の木賃宿や簡易宿泊所、救世軍の宿舎などを転々として絵を描い

殉教者

現代御伽草子 ⑨⑨

※県北の歴史や風物を題材としたフィクションです。

あきふゆひこ
亜木冬彦

ような荒々しい絵だが、本質に向かって突進するような迫力がある。キャンパスが買えない時は、板切れや段ボールの切れ端に、筆がないときは木へらや指で描いた。超人的な速筆で、一、二時間でちゃんとした油絵を仕上げたという。

(いい本だけど、これは千円の方の指一本だな)

ネットで一万円の売価をつけて、

いるが、端正な顔だちをしている。着古した薄手のジャンパーとジーパンという格好は、この地ではまだ寒からう。

事情を訊くと、全国を放浪しながら絵を描いているという。金が無くなると、住み込みの仕事を見つけてしばらく働く。そして、いくらか金が貯まればまた放浪の旅に出る。その繰り返しで、もう五年になる。

「松江まで行けばネットカフェがありますから、仕事が見つかると思います」
スマートフォンを持っていなくても、ネットカフェのホームページにそうした求人募集がリンクされているそうだ。

「絵を売るつもりはないのかい？」
安田さんが肩から下げているキャンバスバッグを、文吾さんが指さした。荷物はそれだけだ。

「まだ習作で、とても売れるような絵ではないです……」
「まあいいから、見せてごらんよ」
安田さんが渋々、バッグからスケッチブックを取り出した。

パステル画だった。崩れた廃屋だったり、破損した石仏だったり、描かれている風景は物悲しいが、どこか温もりを感じる絵だった。

た。それを友人知人に強引に売りつけて得た金で安酒を飲む。そうした荒れた生活で胃潰瘍を患い、最後は路上で行き倒れになる。板橋にある日本養育院に収容されるも、すでに胃癌の末期で、五か月後の昭和十五年十月、四十九歳の生涯を閉じる。

(やっぱ、長谷川利行の絵はいいな……)

油絵の具をそのまま塗りたくった

状態がいいので売れるかどうか。店頭だと、三千円でも難しい……。古本屋の買取の基本は、売価の一割である。

「安田さんは、買い戻したいそうだし」
文吾さんが口添えた。

「もちろん、お店の売値で買い戻します」
相手の顔を見た。年齢は四十前後だろうか。蓬髪に無精髭を生やして



「よし、この絵を売ろう！」
 文吾さんは、自分のスマートフォンを取り出すと、知り合いに電話をかけた。

店でリサイクル品として売っていた額に入ると、見違えるように“作品”になった。

「長谷川利行という野垂れ死にした画家は、自分の絵を売っても安酒を飲むことしかできなかつた。それが、以前のテレビの鑑定番組で千八百万円の値段がつけられ、そ

の番組を東京国立近代美術館の職員が見ていて、実際に買い取られた……」

「フィンセント・ヴェレム・ファン・ゴッホは、生涯で売れた絵は一枚だけだったといわれている。それが今では世界一有名な画家で、作品は百億円以上で取引されている……」

「文学の世界でも、宮沢賢治は自分の作品を出版社に持ち込んでも相手にされないで、仕方なく自費出版したが、まったく売れなかつた。賢治が生涯で受け取った原稿料は、雑誌『愛国婦人』に投稿した童話『雪渡り』で得た五円だけだったといわれている。かように、芸術の評価は時代と共に変化する。現在は無名の安田画伯の絵も、将来大化けする可能性も無きにしもあらず……」

文吾さんの怪しい……、いや巧みな口上もあって、五万円で3点売れた。これでしばらく絵を描いて過ごせますと安田さんも喜んだ。
 「似てないんだけど、おれなんだよな」

安田さんの置き土産の肖像画を見て、文吾さんがぼそりと言った。なるほど、いたずら小僧がそのまま老いたような顔である。

「リコウさんに影響されたようだが、

性格は真逆なんだよな」

安田さんは東京藝術大学で油絵科を専攻して、大学院まで出て博士号を得ている。長らく高校の美術教師をしていたが、このままでは自分の絵は駄目になると一念発起して、放浪の旅に出た。ちなみに安田さんは下戸で、酒は一滴も飲めないそうだが、「人は自分にはないものに憧れますからね」

文吾さんが頷いた。

「吉井忠という画家が描いた長谷川利行の肖像画を見たことがある。市電で見かけたリコウさんが強く印象に残って、戦後になって描き上げたそう。鬼の顔だと思ったよ。まさに絵の鬼、画鬼だね。タイプは違うが、安田さんも絵に魅せられた画鬼……、いや絵の殉教者というべきか。命をかけるものがあるということ

は、羨ましいことだと思う。軽々しく、幸せとは言えないけどね」

「文吾さんも、文学の殉教者じゃないですか。こんな所で油を売っていないで、命がけで小説を書いてくださいよ。骨は拾ってあげます」

文吾さんはアハハと笑って、コートのポケットから缶コーヒーを取り出した。

まつの古本屋さん どろ書房

古書探索の旅に、お気軽にお立ち寄りください。

- ・ 無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
 - ・ 地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町 2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日（2月は店内整理で全休）
- TEL: 090(9913)3052
- 営業時間 9:30～18:30

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

「旧暦」のカレンダーを見る

古川行洋

第四部 祭事を見る

二月十四日 お水取り（修二会、しゅにえ）

改暦後は、三月一日から十四日間
にわたって行なわれる修二会の中の一
行事である。天平勝宝四（七五二）



年、二月堂開祖・実忠和尚が笠置山
に参籠して、夢のなかで十一面観音
悔過（けか）の行法を拝み、これを
人間界に移して行なおうとしたのが
祭りの始めだと伝えられている。

十三日目の午前一時半過ぎから、
呪師（ずし）以下練行衆が若狭井（わ
かさい）に下り、香水を汲み取って
十一面観世音に供える。これを「お
水取り」という。

二月十五日 涅槃会（ねはんえ）
釈迦入滅の二月十五日（改暦後三
月十五日）に、各寺院で行なわれる
法会をいう。涅槃図をかかげ、遺教（ゆ
いぎ）経を誦読して釈迦の遺徳を追
慕奉賛する。推古天皇のとき、奈良
の元興寺で行なわれたのが最初とい
われている。涅槃とは、入滅を意味
する梵語である。涅槃図は、臨終の
釈迦が沙羅双樹の下で頭北西（あた
まほくせい）に面して臥（ふ）し、
周囲には大勢の弟子や天竜・鬼畜な
どが泣き悲しんでいる様子を描いた
ものである。

二月二十五日 北野梅花祭

この日は、菅原道真公の命日（延
喜三（九〇三）年、太宰府で亡くなっ
た）にあたり、齋行（さいこう）さ
れる梅花祭り。九百年以上も前から
執り行われてきた。ご神前には道真
が、梅の花をこよなく愛でたことか
ら「梅花御供」を供え、厄を祓う祭
典が斎行される。また、太閤秀吉公
が主催した、空前絶後の北野大茶湯
にちなみ、境内の梅苑に野点（のだて）
の席が設けられる。

三月十三日 十三参り

京都、嵯峨の法輪寺に古くから伝
わる有名な行事。旧暦三月十三日（改
暦後四月十三日、その前後に行う所
もある）に、数え年十三歳になる少年・
少女が盛装し、福德・智恵・音声を
授かるために参詣する。

三月十八日 浅草三社祭り

この祭りは、鎌倉時代の正和元（一
三一一）年に、神輿（みこし）を船
に載せて隅田川を渡御した船祭りを
起源とする。

昔は、浅草寺ご本尊が示現された
三月十八日を中心とした祭りであつ
たが、明治になってから五月に行な
われるようになった。これは、五月
の第三土曜日を基点とした金・土・
日に行なわれる。初日は、東京都無

形文化財指定の「神事びんざら舞」
が奉納され、二日目は「御大祭式典」
が斎行される。最終日は、早朝に神
輿が担ぎ出される「宮出し」が行な
われ、町内三方面に渡御し（※写真
参照）、日没に境内へ戻る「宮入り」
を迎えて祭礼行事がおわる。

四月八日 灌仏会（花祭り）

釈迦の誕生を祝して寺院で行なわ
れる法会で、インドから中国を経由
して日本へ伝来した。そして、花を
飾った御堂（花御堂）をつくり、誕
生仏を浴仏盆と呼ぶ水盤に安置し、
竹の柄杓で甘茶を注いでお参りする。
これは、推古天皇の時代（五九三〜
六二九年）から行なわれたという説
があるが、仁明天皇の時代（八三三
〜八五〇年）という説が妥当とされ
ている。

灌仏会を花祭りというようになって
たのは、明治三十四年からのことで、
戦前に稚児行列・舞踊・礼賛の歌など、
子供中心の祭礼であった。本来の花
祭りの姿は、農耕開始にあたって、
作神を迎えて豊作を祈願するという
ことであった。
（著者は広島市安佐地区の郷土史研究
会「安佐通史会」会長。旧暦の啓蒙
や「旧暦カレンダー」の普及に尽力
している。）

ヨーロッパ23日間「卒業旅行」(六)

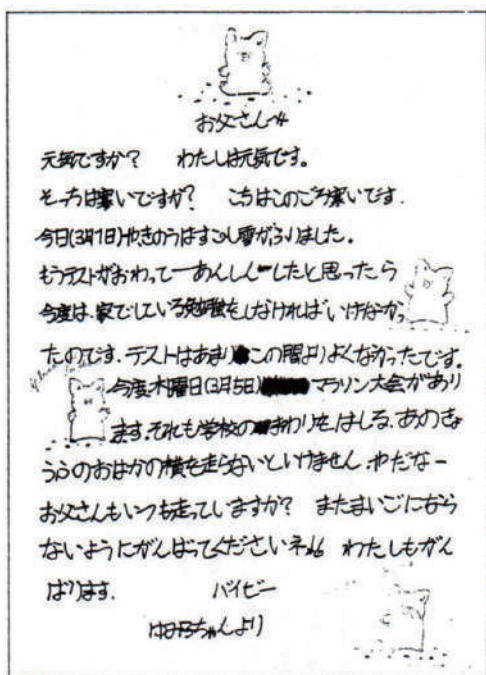
マック☆ヤマザキ

2月23日(金)、午前4時のモーニング・コールはさすがに早い！ 前の晩、フロントデスクに依頼するの
が気が引けた。荷物運びはホテルのボーイさんに頼まずに、自分達で運ばせることにした。

学生たちを4班に分け、翌朝4時半までにエレベーター前までスーツケースを各自持参する。4人の班長さんのうち2人がエレベーターに荷物を載せる役、2人の班長さんがロビーで受け取る役で、所定のところ

に集めておく。このやり方は毎年の卒業旅行の経験からくるアイデアで、人員の確認はもとより、荷物を持った列車の乗り降りでも非常に役立つ。また、旅行中の変更事項の通達などにも便利だ。

フランス人ガイド、エマニエル氏がビニール袋に入った朝食用のパンとジュースを持ってバスに乗り込んですぐに、「今自分で持ち込んでいる食べ物、ジュース等の飲食、喫煙は空港に着くまで控えてください」と



次女 ゆみ子からの手紙

注意した。多分、バス・ドライブバーから言っただけと頼まれたのである。3日目にドーバー海峡を渡って、カレー港からパリのホテルに運んでくれた時、学生たちがバスの中を散らかしたままで降りたことが頭にあったのだらう。自分が

指示していなかったことを反省する。エマニエル氏は日本で2年間生活していたことがあり、日本語が流暢。フランス人特有のブラックユーモアで「これからエアポートまで2400秒かかります…」とか「皆さんが乗る船、いや飛行機は…」という具合だった。

8時55分、西ドイツ・フランクフルト空港に時刻表通り(我々の業界用語でオンスケ、オン・スケジュールの略語)到着。我々を迎えてくれたガイドさんは昨年11月に「デュセルドルフで仕事を一緒にした「鈴木さん」というご婦人だった。他愛もない話をしながら到着荷物の出て来るターミナルを見ていると、女子学生のHさんが「私のスーツケースが出てこない」と報告。鈴木さんは

手際よくエールフランスのスタッフと紛失した荷物(ロスト・バゲッジ)の手続をし、当面の必要経費として日本円で約五千円を彼女に渡す交渉をしてくれ、その場をしのいだ。ホテルにはチェックインできる時間より早く着いたため、全員のスーツケースを預け、あとで各自の部屋に配っておくよう依頼した。その間、みんなには自由時間として市内を見物してもらった。

私は、一人でマイン川沿いのジョッキングに出かけた。中学生くらいの二人の男の子がモーターバイクを囲んで何やら苦戦中、チェーンが外れて車軸に食い込んでいた。子供たちのために素手で食い込んだチェーンを引っ張ったがびくともしない。「ゴメンね。助けにならなくて」と言いながら、別れ際にバイクを何気なく後ろに引っ張ってみた。すると「ガチャーン」といって、食い込んでいたチェーンが外れたのだ！ 3人で思わず手を取り合って喜んだ。みんな黒い油がいっぱい手のひらに付いていた。ホテルのカウンターで部屋の鍵をもらおうとき、この汚れた手のことをどう言い訳をしようかと考えながら帰った。

ご当地フランクフルト・ソーセージをあてにドイツビールがうまい！ この国では、16歳以上になるとビールが飲める、それどころか保護者が一緒なら14歳以上も飲めるとガイドが教えてくれた。14歳といえば中学2年生ですよ！ そういえば、フランスでも高校生くらいになれば家では大人と同じビールやワインを平気で飲んでいきますとのこと(ガイド談)

どろくろ俳壇&歌壇

※参加を歓迎します。

啓蟄やせつかち虫とのんき虫

近藤 昌平

ポストまで雪路は難事行き戻り

富久光

飛来して枯木に休む鳥の群れ

片岡 正人

紅梅に女子学生のはずむ声

隆愚

藁足りず注連飾の並ばぬ爺の店

大槇 三代子

今年また雛の掛け軸飾りをり

寺内 龍二

膝抱え猫になりたし冬布団

赤川 冬人

山茶花は椿櫻を待つあはひ

松岡 初枝

しばしの紅を冬枯れの中

投稿&寄稿

候のことば

「桃始笑」

隆愚

暦の七十二候で、三月十日から三月十四日ごろを、啓蟄の次候で「桃始笑」（ももはじめてわらう、ももはじめてさく）の候といひます。桃

の花が咲き始める頃です。桃といえは、三月三日の桃の節句ですね。現代の暦では、少し早い様ですが、旧暦ですと丁度花の盛りだった事でしょう。桃は枝にそって沢山の花をつけるので、子孫繁栄の象徴として神聖視されてきました。弥生時代の遺跡から桃の核が出土し、古くから日本にあった事がうか

がわれます。

梅や桜と似ていますが、梅は花びらの先が丸く、桜は割れているのに対して、桃はどがっています。とはいえこの時期は、杏（あんず）、山桜桃梅（英桃、ゆすらうめ）、海棠（かいどう）など、よく似た花が次々と咲いていく時期。昔は花が咲く事を「笑う」「笑む」といっています。どの花もみんな美しく笑っています。春の園紅（くれない）にほふ桃の花 下照る道に出で立つ娘子（おとめ）

大伴家持

「犬への思い」

片岡正人

昨年、米大リーグで大谷翔平選手が3度目のリーグ最優秀選手（MVP）に満票で選ばれた。エンゼルスからドジャースに移籍して、「指名打者」でバッターに専念し、前人未到の50本塁打と50盗塁（50-50）の快挙を達成した。ワールドシリーズ制覇にも貢献。

MVP発表の時、愛犬の「デコピン」も一緒にいた。シーズンを振り返り「一番緊張したのはデコピンが始球式をした時」と笑いを誘う。

以前、作家・五木寛之さんのエッセイ集で「イヌは人間の友である」

と題する章を読んだことを思い出す。北陸の金沢に住んでいた頃に飼っていた、すこぶる静かな犬でめつたに吠えない哲人のように寡黙な犬を「ドン」と名付けていた。名前の由来はロシアの小説家・シヨロホフの作品「静かなドン」から引用。

ドンと仲良しのネコが一匹いた。ある日、そのネコが道路でトラックにひかれて死んだ。その日からは、ドンが毎日のように現場の道路の隅に黙々と座っている姿が見られた。この章を読んで感動し、今もここに残る。

我が家に17年余り飼っていた雑種の中型犬がいた。ほとんど芸をしない犬であったが、よく吠えるので番犬にはなっていた。長年、一緒に散歩をしたが、最後の一年くらいはよぼよぼと歩き、一週間くらい前には寝たきりになった。それから、ペットシートを取り替えていた時に息を引き取った。それまでに出来るだけの事はしてやっていたので、亡くなった後もペットロスはあまり感じなかった。

近くのペット霊園で家族と共に見送った。今は額に入れた遺影を時には眺めている。

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載して
いるので、ダウンロードして
お楽しみいただけます。



<http://shobara.wix.com/dorakuroa>

「庄原を想う会」主催の交流会

「気軽に庄原について話し、仲間の輪を広げよう」

日時：3月22日(土) 13:30～15:30

テーマ：「地域資源を活用した庄原の
活性化について」

講師：柳井 妙子

場所：交通交流施設2 (JR 庄原駅隣接)

参加費：500円

(学生 200円、お茶菓子代込み)



申込み&問合せ：080-3631-9125 (やない)

徳岡政暁 陶芸作品コーナー

陶芸家、画家(徳岡佛性坊)として多彩な
活動をしてきた故・徳岡政暁氏の陶芸作品
の展示販売を、どら書房の一角でしていま
す。

茶碗や花器、陶板や料理皿、多様な作品を
展示しています。あなたのお気に入りの逸
品が見つかるかもしれません。

※天井が低いので頭上注意!

黒ニンニク好評発売中! (どら書房店内にて)

- ・青森産ニンニクホワイト六片使用。
- ・甘みと適度な酸味、ニンニク臭さは
ありません。
- ・ポリフェノール含有で、抗酸化作用、
滋養効果を期待。

80g入り：500円

※増量ジャンボニンニクもあります。

「ぐんぐん伸びよう会」

(教室：庄原市川西町 241 連絡先：080-3631-9125 やないたえこ)

幼児教育の必要性についての Q & A

Q: やはり幼児のうちから、いろいろとはたらきかけた方が良いでしょうか。

A: 人間の脳は、3歳までにほぼ60%、6歳までにほぼ80%できあがってしま
うと言われています。この大切な時期に、お子さんがいろいろなものに興味を持てるように語りか
けを多くしたり、注意をうながしたり、といったように、ちょっとした大人のはたらきかけが大切ですね。

無料体験学習受付中!! お気軽に問い合わせてくださいね。対象者:0歳～小学6年生



編集後記

◇「中国5県絶景の旅」
の取材は、2月は休業
中なのでゆったりした
計画を立てて、3泊4
日の豪華版(時間だけ
ですが)になりました。
1回だけではおさまら
ないので、2回に分け
て掲載します。

◇在庫整理は、カーテンを閉
め切りの窓を塞いで壁一面に
本棚を設置、ようやくベッド
脇の本を移動することができ
ました。整理して並び替える
のはこれからです。

◇2月の在庫整理期間、いつ
にも増してせわしない時間を
過ごしていました。本音を書
けば、暑さの厳しい8月も休
みたいです(苦笑)
◇寒波襲来、2月は雪がよく
降りましたね。ようやく3月、
春本番です。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail:touzin@nifty.com

誌面デザイン:ROUTE183

協賛:九日市愛好会

第281回

くんちいち

ひょうばあ九日市

◇ イベント情報 ◇

★年代物（60年以上）の豪華な雛人形の段飾りセットを展示（三上宅）。

※海外で大人気！ 購入希望の方には相談にも応じますので声をかけてください。



着物レンタル（着付けあり）

場所：楽笑座 時間：9時～12時

料金：500円

※国際交流会の県立大学留学生が
多数参加予定

3月9日(日)

9:00～13:00

TOPICS(開催場所は裏面の地図参照)

★市民ギャラリー「アート多愛夢」
3月8日(土)～10日(月) 10時～15時
「令和6年度庄原文芸大会入賞作品展」

★HONMACHI STAND→コーヒー100円引き

★カフェクラウド タピオカドリンク100円引き
九日市特製ピタサンド600円

★アンドカフェ（比婆医院隣接）、2種類のスムージーが100円引き。

★どら書房、休憩室（漫画ルーム）あります！ 無料です。

★あなたも自分のお店を出してみませんか？（出店者募集中！）

*出店申込みは、【毎月20日締切】 コンパネ1枚スペース1,200円～
九日市愛好会事務局 TEL/FAX(0824)72-8285
〒727-0013 庄原市西本町2-1-10（楽笑座内）

【ホームページ】
<http://www.kunchi-ichi.jp>

